

令和2年度 自己改革への取り組み状況について

JA大北では、組合員・地域に愛され支持されるJAであり続けるため、将来を見据えた自己改革に取り組んでいます。

「自己改革」は、地域農業の繁栄と暮らしにJAがなくてはならない組織であることを目指す改革です。組合員・地域とともに一步先のJAをめざし、令和2年度は「JA大北長期構想・3カ年計画(2019～2021)」のもと、下記の取り組みを行ってまいりました。

(1) 農業生産基盤の強化による産地の維持

- 農薬散布用ドローンやロボット芝刈り機など、スマート農業関連の技術紹介・試験導入を行ったほか、免許等取得に向けた講習会の開催などの導入支援も行いました。

- 農家の農作業支援として、支所やセンター、直売所、ホームページで農作業求人情報を掲載し、求人情報の共有を図りました。また、JA長野県労働力支援センターが運営する農業求人サイトによるマッチングおよび観光地と連携したマッチングを行いました。



農業用ドローン講習会

- 大町市の農産物直売所「ええっこの里」にて、「農ある暮らしサポート直売所」として、営農指導・就農・移住相談対応を行いました。

- 中小規模農家・直売所出荷者などのコスト削減、作業の省力化と利便性を向上させるため、レンタル農機などリース機の推進を図りました。



リンゴ剪定講習会

- 各農作物の時期に応じた、現地での栽培講習会などを管内各地で開催しました。

- 「JA大北農業開発積立金」を活用し、直売所の新規出荷者や重点栽培品目における新規栽培者・栽培面積増反者への苗代の助成、機械等の貸し出しなどを実施し、園芸振興に努めました。

- 農家所得増大のため、水稻春肥の予約注文による価格対応や生産資材購入の一部助成などを行いました。

- 担い手農家のニーズなどに対応するため、農家対策支援室、営農指導員による定期的な訪問活動を行ったほか、JA営農事業に関するアンケートを実施しました。



ふるさと納税米粉麺出品

- インターネット上(ネットショップ・ふるさと納税)での農産物・農産物加工品販売による販売力強化、PRに努めました。

(2) 組合員と JA のつながり強化

- 移動購買車を用いた山間地への生活用品・食料品の販売を行い、買い物弱者を無くし、安心して暮らせる地域づくりの貢献に努めました。
 - ・ 令和 2 年 6 月末に閉店した「美麻生活資材店舗」の機能を補完するため、7 月より美麻地区での移動購買車巡回を開始しております。

- 移動金融店舗による、出向く体制での、貯金などの金融手続きを継続して行いました。(現在、八坂・美麻・中土・北小谷地区での巡回)

- 准組合員へ、J A 自己改革の情報や J A 運営に関する情報などの発信を行いました。また、准組合員の意思反映に向けて、Web での利用者アンケートを実施しました。



准組合員向けリンゴ収穫体験

- 准組合員への食農体験の一環として、当 JA モデルほ場にてリンゴの収穫体験を実施しました。

- こどもカフェや生活困窮家庭への食料支援活動（フードドライブ）として当 JA や女性部において、行政を通じ、食料品や飲料品などの提供を行いました。

- 次世代を担う子どもたちに農業の大切さを知ってもらうため、J A 青壮年部による野菜の提供等を行いました。

- ・ J A 青壮年部による保育園への野菜提供（8 月）

※ なお、毎年の保育園児による野菜の定植・収穫体験は新型コロナウイルスの影響で実施できませんでしたので、野菜の提供のみを行いました。



こどもカフェ等への食材提供

(3) 総合事業を支える JA 経営基盤の確立

- 事業施設再編方針に基づき、事業効率化による収支改善を図るため、施設の整備を行いました。
 - ・ 令和 2 年 3 月に松川村の介護ショップまつかわの専門業者への事業譲渡、大町市ふれあいプラザ内「デイサービスえくぼ」の閉所
 - ・ 令和 2 年 4 月に大町市の JA 大北居宅介護支援事業所の医療機関への事業譲渡
 - ・ 令和 2 年 5 月にときわ生活店舗を閉店
 - ・ 令和 2 年 6 月末に松川村の松川給油所、大町市の美麻生活店舗を閉店。

- 働き方改革への対応、労働生産性の向上、各職員の労働負担を軽減するため、仕事内容、繁忙期対応時の働き方の改善、各施設の営業時間の見直しなどを行いました。

- 不祥事等の未然防止と事務統一による事務の正確性向上のため、適切な職場離脱を実施しました。

- Web 会議環境の整備を行い、Web 会議への積極的な参加により、管理費の削減につながりました。